

# ようじえんだより 2017年度12月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地  
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

## 12月主題『うれしい』

主題聖句：「いと高きところには栄光、神にあり、地には平和、御心に適う人にあり。」  
ルカによる福音書2章14節

☆ 0～2歳児：クリスマスの雰囲気を楽しみながら、イエス様のお誕生を喜ぶ。冬の自然にふれ、寒い冬でも元気に遊ぶ。保育者に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする。

☆ 3～5歳児：クリスマスの意味を知り、楽しみに待ち祝う。心を合わせて喜びや感謝を表現する。社会や世界の出来事に関心を持ち、自分たちにできることを考える。

## クリスマスに思い出すこと

毎年この時期になると、二人の子どもを思い出します。一人は突然の病気で天に召されたYくん。もう一人は長い闘病生活の末に天に召されたDくんです。どちらも前任地の鹿島幼稚園で出会った子どもで、クリスマス直前に亡くなったのでした。冬の空気を感じ、クリスマスソングを聞いたたびに、二人のことを思い出し、胸が苦しくなります。在園生を天に送ることは、園長として耐え難い苦しみでした。元来クリスマスは牧師である私にとっては忙しい時期でもあり、また11年前に娘が与えられた喜ばしい時期のはずなのですが、今は悲しい気持ちを思い出す時となっています。

## しみりと過ごすクリスマスもある

ドイツ在住の作家、川口マーン恵美さんは、ドイツのクリスマスの空気は、「喜びあふれる春のイースターと比べて、クリスマスはどちらかという、1年の終わりにこの年を振り返りながら、家族でしっとりと過ごす」とおっしゃっています。この年、悲しいことや死別があった人たちにとっては、在りし日のその人を偲び、

イエスキリストを通してその人と今もつながっていることを感じる時が、クリスマスでもあるのです。

## 次の年を生きる新たな力（命）をいただくために

クリスマスは、サンタクロースからのプレゼントを受け取る時でもあります。本来的には、イエス様の誕生をお祝いする時です。キリスト教主義の保育園・幼稚園では「おめでとう」という気持ちを届ける大切な教育機会でもあります。「受けるより与えるほうが幸いです」という聖書の言葉を学ぶ時です。しかしそれだけではなく、やはり大切な「命」を受け取る時でもあると私は思われています。「あなたは大切な存在だ」「安心していきなさい」と言われ、弱く小さい者の味方であり続けたイエス様という存在を与えられていることをこのクリスマスに確認することで、どんなに傷つき、倒れ込んでも、再び立ち上がり、新しい年を生きていくことができると思うのです。毎年この年末にクリスマスをお祝いすることの意味を、しみじみと感じています。

園長：久保田愛策

## 年間主題『愛されて育つ』

主題聖句：あなたがたは神に愛されている子どもです  
新約聖書 エフェソの信徒への手紙 5章1節